





延長タイブレーク10回八学光量無死満塁、佐々木龍馬が右前適時打を放ち、7-6と勝ち越す

# 最終盤猛攻 一挙9得点

## 佐々木、口火切る勝ち越し打

序盤のつづきを全うすかのよ、打者一巡の猛攻で9点を巻き取った。タイブレークの延長10回、八学光量打線。この日の打席を



延長タイブレーク10回八学光量無死満塁、鈴木悠斗が中継用を放ち、9-6とする

準備の活躍を昇せた佐々木龍馬は「チームが逆方向を意識した打撃ができた」と自信を語った。好左衛門を導く機嫌との対戦が決まっていたから、左投手対戦を徹底してきた。しかし、序盤は観衆を弾む相手打線を打ちあぐね、あと一本が出ない展開でリードを許した。一進一退の攻防の中で、眠っていた八学光量打線が最終盤に火を噴いた。

タイブレークワンシーンを二、三塁に置き、外野の山入端立野がバント安打で満塁すると、佐々木がさすが右利に勝ち越しの適時打を放ち、攻撃の口火を切った。四死球で塁をため、単打で着々と得点を積み重ねると、北口寛大の中継ええ高適時二塁打でリードは急拡大。一勝利を確信したという佐々木も、一巡した打席で適時打を放つことでめを閉じた。

「自分は打撃上りも守備が真珠。二遊間でも入るが多かった」とチームで6失策のゲーム内容を反省。攻撃まで日数があるので、きょう出たミスはなくし、一戦必勝で臨みたい」と前を向いた。

(大西健介)



右面表、左遊えに三塁を放ち、一塁を回す八学光量・菅沼斗

## 「いい感触だった」菅沼が8回2点本塁打

〇「打った瞬間入ったと確信した。いい感触だった」と八回に放った勝ち越しの2点本塁打を振り返った一塁手菅沼斗。公式戦初本塁打が、チームを救う一発となり「ベースを回りながら鳥肌が立った」とはにかんだ。

「初めての舞台で緊張していた」という菅沼。初回、エース北口寛大が2連打を許すなど苦しい立ち上がり。「何とか力になりたい」と三ゴロを捕球して併殺を狙ったが、二塁への送球がそれで先制点を許した。

しかし、すぐに気持ちを切り替え、四回には右前適時打、七回には左中間を破る三塁打で出塁して同点のホームを踏むなど、バットで自分のミスを取り返した。

八回には「狙っていた」という甘く入ったスライダーを真芯で捉えると、打球はぐんぐんと伸び、相手の応援団が弾取る左翼席に突き刺さった。3安打3打点と大暴れし、リードオフマンとしての役割を全うした菅沼。「勝利に貢献できたことが一番」とチームファーストを強調した。



メガホンをたいて機嫌をあげる生徒  
19日、八学光星画

### 八戸の応援部隊、ナイン鼓舞

○八戸学院光星では、運動部の生徒が入ら集まり、大型スクリーンで試合を観戦。遠く離れた八戸の地から応援を送り、ナインを鼓舞した。

校内応援にはラグビー部、女子サッカー部、柔道部、アイスホッケー部、ソフトテニス部の生徒が参加。好プレーにメガホンをたたくなどしてエールを送った。

試合は互いに点を取ら合う二進二退の攻防となり、今大会初の延長タイブレークに突入。延長10回無死満塁、7番佐々木龍馬が右前適時打を打ち勝ち越しに成功すると、生徒は歓声を上げ立ち上がって喜んだ。

その後も光星打線は止まらず、9点を奪い見事初戦突破。会場は朝れいばかりの拍手と歓声に包まれた。

アイスホッケー部の前田文さん(17)は「最初は何だか緊張していたけど、みんなが一緒に盛り上げてくれて、勝つ喜びが伝わってきた。これからの試合でも、諦めずに最後まで戦い優勝してほしい」と話した。



延長タイブレーク10回無死満塁で走った三塁、八学光星の西村輝才が進行中の打球を捕球し、ガッツポーズを撮せる

### 途中出場「正夢」のスーパードライバー

○延長タイブレーク10回、グラブを握らず、地面を走り回り、相手打者が放った打球が左翼前に上がった。途中出場の西村輝才が快足を飛ばして打球に追い付

き、グラブを握らず、地面を走り回り、相手打者が放った打球が左翼前に上がった。途中出場の西村輝才が快足を飛ばして打球に追い付

「前夜に甲子園でウイーンの強み。守りで貢献できて良かった」と夢見心地だった。